

日帰り観光から宿泊観光への転換戦略

鹿嶋市の観光資源を中心として

【目次】

はじめに	第三章 鹿嶋市の観光の現状
第一章 わが国の観光の現状	第一節 鹿嶋市の概要
第一節 わが国における観光旅行の動向	第二節 鹿嶋市の主要な観光形態
第二節 わが国における観光政策の歩み	第三節 鹿嶋市の日帰り観光と宿泊観光
第二章 全国における宿泊観光戦略の取り組み	第四節 鹿嶋市の観光への取り組み
第一節 宿泊観光の意義	第四章 鹿嶋市の日帰り観光から宿泊観光への転換
第二節 日帰り観光と宿泊観光の消費額の比較	第一節 鹿嶋市の新たな観光資源の発掘
第三節 宿泊観光増加への取り組み	第二節 鹿嶋市の宿泊観光への転換
	おわりに

【目的】

日帰り観光と比べ、宿泊観光は宿泊施設やレンタカーの利用、食事や滞在時間などからその観光地での経済効果が大きく影響するのは明らかであると考えられる。しかしながら、この日帰り観光業と宿泊観光業はこれだけの問題にとどまらない。茨城県鹿嶋市では、日帰り観光客の増加とともに、日帰り観光客を中心とした観光戦略が取り上げられ、本来あった歴史的・文化的価値のある建造物や文化財などが風化しているように思われる。よって、宿泊観光を増加させることは、間接的に風化してしまう可能性のある文化財などを表面化する可能性を含んでおり、都市部周辺地域における、いわゆる「エンターテインメント産業」と地場の文化財を基にした観光業の共存という可能性を示唆しているのである。そこで、日帰り観光の割合が大きい鹿嶋市を例に挙げて、宿泊観光客を増加させるにはどのような観光資源が必要なのか、また、その観光資源をどのように活かすべきなのかを考察した。

【方法】

関連文献・統計資料・鹿嶋市役所への聞き取り調査などから鹿嶋市の日帰り観光と宿泊観光の現状を調べ、日帰り観光から宿泊観光への転換について考察する。

【結論】

日帰り観光から宿泊観光へと転換させるには、その地域に埋もれてしまっている歴史的・文化的に価値のある建造物や文化財を活用すべきである。特に鹿嶋市では、エンターテインメント産業に訪れた日帰り観光客に対してこれらの観光地を積極的にアピールすることにより、その日帰り観光客に宿泊を促すことが望まれる。歴史的・文化的に価値のある観光資源は、年数が重なり、地域の住民によって保全・保存を行なうことによって価値が高まっていくと考えられるので持続可能な宿泊観光を展開することができるのである。これらの観光資源を活用して、日帰り観光から宿泊観光へシフト転換となれば、「地域での経済効果」と「歴史や文化の風化を防ぐこと」の両面において大きな効果があると考えられる。また、歴史的建造物や文化財を活用して、その地域の歴史的・文化的魅力を向上させることにより、「エンターテインメント産業」と「地場の文化財を基にした観光業」の共存の可能性が生まれ、京都市にみる「近代」と「歴史文化」の共存するまちづくりとは、また違うある一型体の観光地として捉えるべきである。

【参考文献】

- 日本観光協会 「数字で見る観光」 創成社 2007年
羽田耕治 「地域振興と観光ビジネス」 JTB 能力開発 2008年
佐々木一成 「観光振興と魅力あるまちづくり」 学芸出版社 2008年
国土交通省 「平成20年版観光白書」 株式会社コミュニカ 2008年